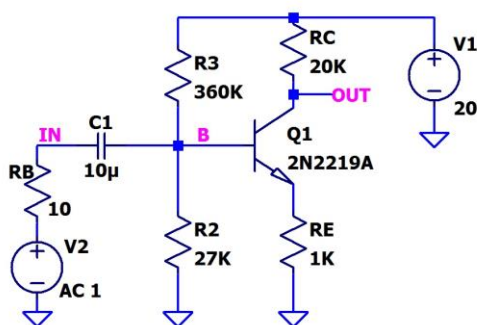


# AC 解析で利用する MEASURE コマンド

AC解析では、利得(あるいは振幅)などをdB表示することが多い。しかしさまざまな場面で「真数」を利用したい場合もある。

.MEASURE コマンドを使うとき、状況に応じて「dB」と「真数」を使い分ける手法について解説する。

## 1-Tr 増幅器を例題に 最大利得と $-3\text{dB}$ 帯域幅を測定する



```
.ac oct 100 0.1 10Meg  
.OPTIONS plotwinsize=0
```

```
.OPTIONS meascplxfmt=bode  
; .OPTIONS meascplxfmt=polar  
; .OPTIONS meascplxfmt=cartesian
```

表示桁の最後が[0]になる場合は、表示されない

```
.OPTIONS measdgt=8 ; .meas の表示桁数を設定するオプション。デフォルトは「6」
```

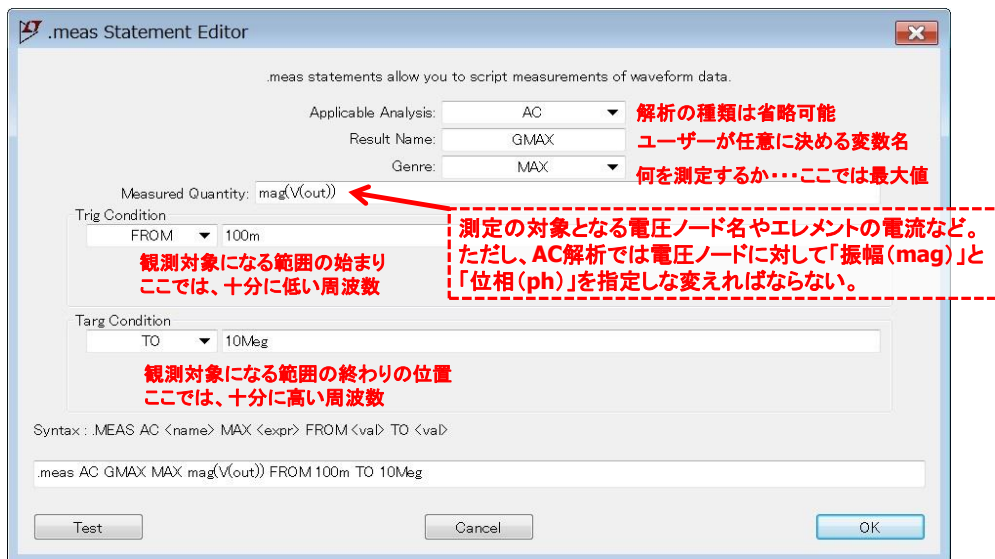
```
.meas AC GMAX MAX mag(V(out)) FROM 100m TO 10Meg
```

```
.meas AC BW TRIG mag(V(out))=GMAX/SQRT(2) RISE=1 TARG mag(V(out))=GMAX/SQRT(2) FALL=last
```

## .MEAS 設定のポイント

- AC解析で「.MEASURE」コマンドを使うときには、まずアンプなどの特性が歪などがなく、期待した動作をしている回路構成であることをまず確認する。
- .meas Statement Editor を使うと便利である
  - スパイス・ディレクティブのエディターを開き(ホット・キー[S])
  - 一旦、回路図中に「.meas」だけをプレースし、
  - その文字列の上にマウス・カーソルをのせ、右クリック。
  - .meas Statement Editor のダイアログボックスが開く。

## .meas Statement Editor



# 測定結果

